

*訳は、意識または、要約であり、文献などに引用される場合は、オリジナルの英文を参照ください。そして、引用の場合は、必ず、正式な引用のフォーマットに従い、出典を明らかにしてください。

目次

ディレクターからのお願い	From the Director	2
世界で一番大きいインコ コロニー	Full house	3-7
メキシコ・モンテレーの野生化オウム	Feral parrots in Monterrey, Mexico	8-9
アオキコンゴウのヒナ	Baby blues	9
ルリゴシボタンインコの三角関係	Ménage à trois in captive Fischer's Lovebirds	10
メンバーより (訳なし)	Member missives	11
オウムの行動とトレーニング DVD	Parrot behavior & training DVD for sale	11
新製品販売	Wombat zipper for sale	11
ペット貿易のための繁殖は「責任のある鳥飼養」か? Is captive breeding for the pet trade really 'responsible aviculture'?	In my opinion	12-13
お悔やみ	In memory of ...	14
マイレッジの寄付	Birds of a feather	15
米国鳥の会がオウム保護活動を支援	Bird clubs of Virginia rally for WPT	15
シタニュース	Psitta News	16-18
<ul style="list-style-type: none"> ・絶滅危惧種オオバタンが、密輸入業者から没収され、放された ・2種の新種が発見される ・バード プロジェクトの開始 ・テキサス 電気会社がオキナインコを移動させようとする ・保護監督ケースの間、刑務所で過ごしたオウム 		
誕生プレゼントの寄付 (訳なし)	Birthday support by WPT member	18
行動とトレーニングワークショップ (訳なし)	Behaviour and training workshop	19
WPT情報 (訳なし)	WPT general info	19
写真	Parrots in the wild	20

From the Director ディレクターからメンバーへのお願い

The EU extends ban on bird imports EU、野鳥輸入禁止を延長する

前回のシタシーンでもご紹介したように、野鳥輸入の禁止が1月で終わるところを、5月まで延長されました。新たな期限が迫り来る中、EUの委員会 (the EU Standing Committee on the Food Chain and Animal Health) が、禁止を7月31日まで延長することを決めました。これは、過去6ヶ月の禁止によってどういう変化をもたらすのかということの情報を集め、それを提出するための時間を我々に与えてくれます。最も重要なことは、EUでの野鳥貿易は、すっかり止められたということです。

2005年の10月に短期の貿易停止の発表から何日かのうちに、野鳥捕獲が止まったと聞いています。これによって、「貿易禁止は、隠れた違法貿易を促進する」という動物貿易関係者が我々に言っていたこととは違うということがわかりました。密輸された鳥は、隔離施設を通らないということから、論理的には、貿易の禁止は、病気が国に運び込まれる危険性を高めるということでした。他の国々で見、EUで予想し、そして、今、我々が結果を見た通り、そのようなことは、起こっていません。それどころか、密輸の割合 (没収の割合によって示される) は、ここ何ヶ月では、下がってさえいます。もちろん、一番大切なことは、この禁止の延長により、さらに、600,000羽の野鳥の命が助けられるということです。これは、この禁止によりすでに助かっている2,000,000羽に追加されます。ともかく、これはかなりの数です。

我々は、野鳥貿易を終えるキャンペーンを支える皆様の熱意に感謝しております。「私にできることは何ですか」という質問をよくいただきます。何万人もの皆様がすでに、署名をし、貿易バンドを購入し、元捕獲者が作った置物を買ってくださっています。

実は、皆様にしていただけることがあります。来週していただくと有難いのですが。まずは、その背景を少々お話いたします。貿易禁止やその延長については、ヨーロッパの委員会の“人々 human beings”によって決められます。彼らの仕事の多くは、官僚的、政治的であり、人からお礼などを受けることはありません。特定の人の不利益になるようなことが起こった時だけ、彼らは苦情を受けます。私が参加

したブリュッセルでの先月の会議では、野鳥貿易の禁止の過程に関わった人々が、野鳥貿易に関心を持つようになったのに気づきました。

実のところ、彼らは、このステップを踏み出したのは、よかったと思っています。この選択は、鳥インフルエンザを広めないために取られました。何百万もの美しい野鳥を救ったという副産物について、してよかったと思っています。

我々は、何千もの鳥の（絵のついた）カードを、お礼の印として委員長に送りたいと思っています。我々がどれほど感謝しているかを分かっただけでなく、この先、彼がどれほど多くの野鳥を救うことになるかを分かってくれることを期待しています。

ほんの2、3分でいいのです。どんな鳥でも構いません。鳥の絵や写真の載っているカードに、短い感謝の言葉を添えて送ってください。長々と書く必要はありません。「野鳥を救ってくださってありがとうございます」だけでいいのです。英語圏以外からの場合は、その言葉で書いてくださって結構です。あなたの友達、家族、そして、知り合いのとり好きなら誰でも結構ですから、お願いしてください。送り先は以下の通りです。

Mr. Markos Kyprianou
Commissioner for Health and Consumer Protection
European Commission
B-1049 BRUSSELS
Belgium

鳥達のために、ご協力をしていただき大変有難うございます。

ディレクター WPT ジェイミー ジラルディ

Full house 世界で一番大きいインコ コロニー
the Burrowing Parrots of Patagonia パタゴニアイワインコ
By JUAN F. MASELLO, CHRISTINA SOMMER and PETRA QUILLFELDT

アルゼンチン、パタゴニアのエル コンドルには、パタゴニアイワインコ(Cyanoliseus patagonus)の巣が 35,000 もある。2001年と2002年の観察から、このコロニーは、大西洋に面した砂地の岸壁9キロにも及ぶことがわかっている。パタゴニアのリオ ネグロという地区にあり、51,412の穴があり、推定37,527の実際に使われている巣があることが分かっている。2003-2004の繁殖期に、雛を育てていない6,500羽のインコが、このコロニーに関係していることが分かっている。オウム類の中で(Psittaciformes)、これは一番大きなコロニーであることが知られている。オウム類のほとんどは、穴に巣をつくり、一般に、ペアは一生連れ添い、隣の穴を超えることのないテリトリー性で、これらの性質は、オウム類の何種類かを、一目瞭然の繁殖コロニーに住まわせることとなる。

この種は、アルゼンチンの中では、北西にあるアンデスのスロープから、南のパタゴニア草原に生息する。茂みのある草原や乾燥した森、農場などに生息するが、砂地や石灰岩の崖が彼らの巣作りに不必要だ。パタゴニアイワインコは、移動性があり、繁殖期以外は、コロニーを離れる。巣は成鳥が掘る。ペアは、前年に使ったのと同じ巣を使うが、毎年、使うたびに穴を大きくする。各穴は、一つの番(つがい)によって使用され、オス、メスが協力して雛を育てる。1年に2個から5個の卵を産む。

イワインコの保護ステータスは1980年代に調べられたのが最後である。以前は、アルゼンチン中によく見られたが、現在では、局地的に数が多い地域があるだけで、国内の多くの場所から姿を消してしまった。イワインコがアルゼンチンで減ったのは、草原が農地に変えられ、狩猟のため殺され、ペット貿易のために捕獲され、農産物の害鳥として殺されたからである。アルゼンチンでは、イワインコは正式に害鳥として扱われている。しかしながら、農作物への被害は、部分的なものである。何人もの研究者が観察したところ、彼らの餌は主に、雑草の種、木の実などから成っている。イワインコは、つぼみや芽などの柔らかい部分を食することが観察されている。特に、雛が孵った最初の一週間は、植物の柔らかい部分が、“そのう”にあることを我々自身も確認している。したがって、農地の縁や、個別のイベントを除いて、農作物への被害は、たいしたものではない。(PsittaScene Vol 17 No 4: 10-11を参照)。それにもかかわらず、殺すことによって鳥を駆除する方法が、被害の度合いの調査や、代替方法の考察、結果として起こる問題も調べられることなく何年も行われている。我々の観察の目的は、イワインコのコロニーを調べ、繁殖期における餌場への日常行動を調べ、雛に餌をやるパターンを調べ、群れのサイズを調べることにある。イワインコの中で雛を育てていないが、繁殖期にコロニーにいる鳥の割合をも調べる。

*観察場所

我々の観測場所は、リオ・ネグロ川河口の西3キロに位置する。コロニーの周りは、草が茂った草原で、乾燥した森の端もある。この地のほとんどが、農地として使われており、放牧もある。

詳しい研究には、一番東に位置するコロニーを選んだ。研究セクターは30メートルの長さで、25mの高さがあり、約500の巣を有する。観察された109の巣のうち、96は、崖を登ることによって、直接観察された。観察された巣の使用年数は、さまざまであった。崖のこの部分では、砂が落ちて、穴が崩れることがよくあるからである。我々は、岸壁の西の方では、いい観察場所を見つけることが出来なかった。安全に登れる場所が見つからなかったのと、巣の数が少なかったからである。その上、ほとんどのセクターは、海岸での引き潮の時にしかアクセスすることが出来ない。

* 巣の数と様子

穴の入り口の数は、写真によって数えられた。穴が込み入っている所と、そうでない所の周りの環境条件はほとんど同じであった。ひとつだけ明らかに違うのは、ビーチに来る旅行者による騒がしさの程度であった。岸壁の東の方が、人が多い。コロニーが位置する場所は、海のレベルから（海拔）みて、岸壁の11m-27mの位置にある。数えた巣の入り口の合計は53,443である。東側に巣が多いのは、砂の質の違いによるものと考えられる。東のほうが柔らかい砂岩でできている。ほとんどの穴は、1.5mの深さであるが、短いものは60cm、深いもので3.5mあった。

* 行動観察

パタゴニアイワインコは、見つけることができる食べ物の量に対応できるような行動メカニズムを持つよう進化した。乾季には、食べ物への制限から、成長のプロセスが遅くなる。結果的に、ひどい早魃であっても、ヒナは巣立つことができ、繁殖の成功だけでは、その季節の状況を判断することはできない。2001年12月、行動パターンを調べるためにビデオを使った。白黒のミニチュアカメラで、LEDs (infrared light emitting diodes) を光源とし、マイクも付けられている。巣穴の中のチャンバーに向けて、ビデオは置かれるが、巣穴の形を変えたりは一切しなかった。

3つの巣穴が選ばれ、初めの4日は、二つの巣穴を、そして、3日間は最後の一つをモニターするのに費やされた。それ以降のモニターは、ひどい雨でビデオが壊れてしまったので、続けることができなかった。記録は、ヒナが巣の中で一番大きく育ったときを選んだ。その他の要因の影響を避けるため、この記録が行われている間の他の観察は控えられ、レコーディングは、浜辺に観光客がいない時を選んだ。モニター期間中、ヒナは一日に3-6回餌をもらった。3つの巣とも、オスメス両方の親鳥が、夜を巣で過ごした。夕方、親鳥が帰ってくると、必ず、ヒナに餌をやった。そして、親鳥が朝一番に巣を離れる前にも、ヒナは餌をもらった。親鳥は、朝早く巣を離れると、4-6時間程で巣に戻ってきた。この時に餌をもらう率は、どのペアでも高かった(75%)。しかし、午後は、それよりも低い。

* 毎日の動きと群れの大きさ

イワインコの行動パターンは、他のオウム類と同じように、日の出と共に始まり、それから日中まで餌を取ったりし、お昼には、休憩をする。それから、日没前に2, 3時間活動し、日没と共に活動を終了する。イワインコは、群れを作るのが一般的である。観察したところ、成鳥は、最高263羽の群れを作り、朝早く餌場へ移動した。日中遅くには、群れのサイズはこれよりも小さい。一番小さな群れのユニットは、ペアである。

* 餌場への毎日の飛行

2004年12月と2005年1月の6日間、我々は、イワインコの餌場を探がしに出かけた。1400平方キロメートルのエリアには、道路が3つしかなく、小道も少しあるだけである。この辺りの土地は、個人によって所有されているので、観察のために進入するには、許可が必要である。一回の観察ごとに、約120kmの道をゆっくりと走った。木がなく平坦なこの地域で、オウムの群れを見つけるのはたやすかった。2005年1月、我々は空からの観察をした。セスナ182を使い、標高150mの高さから、直線距離でいうと400kmをカバーした。イワインコの群れの餌場とコロニーとの直線距離は、GPSによって計算された。イワインコの生息地は、どんどん農地に変えられている。インコたちは、残りの餌場に行くために、以前より遠く飛ばなければいけないようである。地上と空中からの観測の結果、イワインコは58と66kmを、主な二つのルートを通って餌場に向かうことがわかった。64の群れが自然の餌場に見られ、6つの群れが放牧地、そして、2つの群れだけが農作物のある灌漑の近くで見られた。(PsittaScene Vol 17 No 4: 10-11を参照)。

* コロニーにいる繁殖していない個体

2001年-2002年の観察で、繁殖しているペアは、彼らが育てているヒナと共に夜、巣で眠る。この結果は、2003-2004年の観察でも確認された。したがって、繁殖期であるにもかかわらず、巣で眠らないのは、ヒナを育てていない個体だといえる。11月末から12月までに、夜、エル・コンドルの村にある電線で眠る群れがいた。

半径 30km の範囲にあるその村と、そこに通ずる道だけが彼らの寝る場所であった。2003 年 12 月夜明けに 2 日にわたって数えられた結果、6,471 羽の個体が見られた。これらは、繁殖行為をしていないが、コロニー近くにいる。これらの鳥は、繁殖しようとして、何らかの理由で、その繁殖がうまくいかなかった、(その年に巣立った鳥ではないが) まだ若くて繁殖していない、または、若い鳥で、次の繁殖期のために穴を掘っているもの、などが考えられる。

*コロニーへの脅威と、観察の必要性

コロニーの大きさは、5-10km の距離にも及ぶ。コロニーの重要さは認識されず、現在まで、保護に関する規制は何もない。(PsittaScene Vol 17 No 2: 12-14 を参照)。もっとも深刻な脅威は、イワインコのカサネがなくなっていることである。毎年、自然の植物がある場所が失われている割合は、3.7%にもなる。それに加え、草原の広い部分が、毎年焼かれる。これは、個人所有の土地で、多分、自然の火事から守るためではないかと思われる。イワインコのカサネがある崖の頂上にある草が、毎年、大掛かりな機械で取り除かれる。自然の火事を防ぐためではないかと思われる。植物の除去と、崖の上部を走る道路の草焼きが合わさって、侵食を引き起こす。この侵食は、崖をもろくする。雨は、時に激しい嵐を伴い、植物によってサポートされていない場所の土は簡単に流されてしまう。

その上、コロニーは、過去 25 年の間、ひどい扱いを受けてきた。数を減らす目的で、イワインコ達は、毒殺されてきた。コロニーの一部は、ダイナマイトで吹き飛ばされた。それは、歩行者や車が下の海岸に行けるようになるためである。車は、騒々しく、崖の下にある海岸沿いの侵食の原因になる。同時に、ペット貿易のための捕獲は時にとても激しいもので、親鳥がヒナに餌を運んでいるところを旅行者にいまだに撃ち殺されている。そして、村の拡大が、一番外にある巣より 30m しか離れていない所にビルをもたらした。商業の砂の採掘や、規模の大きいパラグライダーのアクティビティが、年によっては、より以上の騒々しさの原因になる。

以前のレポートでは、コロニーの一番東側に一番巣が密集していると示した。そして、我々の研究の最初の年(1998-2000)でも、結果は同じであった。現在のデータでは、一番密集しているのは、一番東側より内側に入った、二番目の東側である。人間による騒々しさが原因で、こちらに移ったと思われる。人間のこのような行為のすべては、主に東端のコロニーに影響を与える。規制や保護管理計画ができるまで、コロニーは観察されるべきである。

*最後に

一番切迫した脅威は、海岸へ続く道、巣から何メートルかしか離れていないところで行われる旅行者のアクティビティを含めた近くの村の拡大である。今後、繁殖成功率、ヒナの成長と餌を受ける割合、コロニーの増減を含めた正式な個体数調査を毎年行うことを薦める。繁殖活動をしていない成鳥の数も観察されるべきである。この記事は、正式に科学文献の Emu に掲載された。

(Masello JF, Pagnossin ML, Sommer C & P Quillfeldt (2006): Population size, provisioning frequency, flock size and foraging range at the largest known colony of Psittaciformes: the Burrowing Parrots of the north-eastern Patagonian coastal cliffs. Emu 106: 69-79)

*キャプション

パタゴニアイワインコのカサネパタゴニア北東部に位置する海岸沿いの崖にあるパタゴニアイワインコのカサネは本当にすばらしい。コロニーは、侵食、パラグライダー、旅行者、そして、捕獲者の脅威を受けている。彼らの生物学的、行動学的な詳しい研究は、保護活動に重要な情報をもたらす。

巣穴とヒナを直接見る観察は、登るのに適した数少ない部分を登ることによってなされる。Jaun Masello が、ヒナをチェックしているところ。

オウムは種類によって群れのサイズがかなり違う。しかしながら、優先的な社会的ユニットはペア、または、その年に巣立った若鳥を加えたペア達であろう。

餌場に行く鳥の数を数える Petra と Juan と生徒。飛行ルートとこれらのカウントは有用なデータを供給する。これを長年続けると、鳥がどれほどいるかのインデックスになる。

コロニーを守ることは、この個体群の餌探しの必要性の知識と個体識別、そして、餌場の保護を必要とする。

エル コンドルの村の電線にとまる何千ものイワインコ達。ヒナを育てている鳥は、ヒナと共に巣で夜を過ごすので、これらの鳥は、繁殖行為には参加していないコロニーの鳥である。

Feral parrots in Monterrey, Mexico メキシコ・モンテレーの野生化オウム 違法鳥貿易のもうひとつの結末

ReNe ValDes Pena and Jose I.Gonzalez-Rojas, Laboratorio de Ornitologia, Facultad de Biologia, UANL

(訳：WPT ジャパンボランティア H.T さん)

背景

オウムはその鮮やかな色彩と人間の声を真似る才能ゆえにペットとして非常に人気がある。オウムは簡単に手に入り、野生のオウムは危機的状況にあるというのに、オウムを求めようとする人々には環境に対する良心がほとんどない。

メキシコには 21 種のオウム科の鳥が生息しており、そのうち 8 種は *Amazona* 属、6 種はメキシコの法律で保護されている。国の保護にもかかわらずたくさんのオウムが違法にペットとして捕獲されている。カゴで飼われている鳥は飼い手の不注意、あるいは故意に放された結果、逃げるのがよくある。野生化したオウムの多くは、住み慣れた生息地とは異なるが生き残るすべを与えてくれる環境に行き着く。緑地帯にはその土地の木々とともに他から持ち込まれた木もあり、そんな木の多くはオウムの生息地のものと似ているのかもしれない。鳥たちはうまく適応し、食料源、眠るための安全な場所そして他の鳥を見つけて群れを作る。最良のシナリオは鳥たちが本能に従ってつがいになり子孫を残すことである。

ここ数十年、特に米国では大都市の鳥の種の多様性が向上しているが、野生化したオウム科の鳥の数の多さがその一因である。ボウシインコ(*Amazon parrots*)はペットとして人気が高く、新しい生息環境への適応能力に優れているため、野生化したオウムには *Amazona* 属が多い。メキシコではメキシコ北東部のモンテレーを含むいくつかの都市で野生化したメキシコアカボウシインコ(*Amazona viridigenalis*)とフジイロボウシインコ (*Amazona finschi*)が報告されている。

メキシコにおける調査

メキシコにおける野生化オウムの生態についてはほとんど調査が行われていない。そのためヌエボレオン大学鳥類学研究所 (Universidad Autonoma de Nuevo Leon) は 2004 年ボウシインコの繁殖期にモンテレー地域で調査を開始した。メキシコアカボウシインコ、フジイロボウシインコ、キホオボウシインコ(*Amazona autumnalis*)、キガシラボウシインコ (*A. oratrix*)、コボウシインコ(*A. albifrons*)、テリハメキシコインコ (*Aratinga holochlora*)、メキシコインコ (*Aratinga canicularis*)、メキシコルリハシインコ (*Forpus cyanopygius*)、ミドリコンゴウインコ (*Ara militaris*)、ルリコンゴウインコ (*Ara ararauna*)、セキセイインコ (*Melopsittacus undulates*)およびクロカミインコ (*Nandayus nenday*)など 12 種のオウム科の鳥が確認された。

営巣地の説明および巣の調査

調査地域のつがいの行動を観察し巣の場所を突き止めた。3月から6月中旬にかけての繁殖シーズン中、夜明けから午前9時までと午後4時から夕暮れまで観察を行った。大木(40メートルを超える)のある2つの大きな公園に分布する22の巣を見つけた。一方の公園には22のうち20の巣があり、幹や枝の異なる場所に巣が4つもある木が1本あった。アメリカヤマナラシ(*Populus tremuloides*)やアメリカトネリコ(*Fraxinus Americana*)が好まれ、全体の86%の巣はそれらの木に作られていた。22の巣のうち、15はメキシコアカボウシインコのものであり、7はフジイロボウシインコのものであった。ロープや大きな脚立を使って上り12の巣に近づいた。巣穴の特徴を記録した。メキシコアカボウシインコの2つの巣およびフジイロボウシインコの巣の1つに雛が見られた。このほかの巣穴は高い位置にいたり、木がとても古く腐った状態だったりして近づくことができなかった。

メキシコ・モンテレーの野生化したボウシインコの数はこの数十年増え続けており、逃げ出した鳥や繁殖の成功がその一因となっている。本来の自然生息地に生息しているわけではないが、これらの鳥たちはメキシコの法律によって保護されている。町の通りを見ればきわめて明らかな違法貿易から鳥たちを保護するため、私達はこの法律の強化を政府に提案した。

キャプション

メキシコ・モンテレー市立公園のフジイロボウシインコ

さまざまな成長段階のフジイロボウシインコ

6週目のメキシコアカボウシインコの雛

調査中に撮影された噴水を水飲み場に行っているメキシコアカボウシインコ

(訳注) 文中の鳥の和名は次のホームページの情報を参照。

「ウィキペディア・メキシコの野鳥一覧、10.1 オウム科」

http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A1%E3%82%AD%E3%82%B7%E3%82%B3%E3%81%AE%E9%87%8E%E9%B3%A5%E4%B8%80%E8%A6%A7#.E3.82.AA.E3.82.A6.E3.83.A0.E7.9B.AE_Psittaciformes

Baby blues アオキコンゴウのヒナ

By JOANNA ECKLES, World Parrot Trust

アオキコンゴウインコ(*Ara glaucogularis*)の野外調査と共に、人工繁殖により鳥を野生に戻すプロジェクトをボリビアで進めている。人工繁殖による群は、絶滅の危機に瀕した野生個体群を救うのに役立つであろう。2002年の終わり、ボリビアの人工繁殖プログラムで繁殖に使えそうな初めての個体を得た。彼らは、フロリダの Natural Encounters Inc. (NEI)で飼われている。(シタシーン 2005年2月号の写真を参照)。セント キャサリン島で得た11羽の鳥のうち、4ペアが、個別の場所に巣箱と共に入れられた。2006年1月にNEIのスタッフが、一番先に生まれたヒナの声聞いた。繁殖している鳥達には、できるだけプライバシーを与え、彼ら自身でヒナを育てるようにする。このヒナが成長するにつれて、親鳥の一羽が、羽づくろいをしているようだとと思われる。オスは、メスからの羽づくろいのし過ぎではげってしまった。羽づくろいされ過ぎから守るため、鳥は人工的に育てられ、できるだけ早く群れに戻される。

この群れがもしボリビアの野生で放されるなら、それについての近況をお知らせしたい。鳥を野生に戻すには、許可書やその他の手続きが時にとてもややこしい。ご存知の通り、我々は、人工繁殖で鳥を野生に戻すことを野生のオウムが一番の解決策だとは思っていない。しかし、人工繁殖は今後の手段になるかもしれないので、我々は、これからも人工繁殖のプロジェクトをボリビア政府や担当者と話し合っていきたい。我々は、野生の個体群を我々に可能なあらゆる方法で守ってきた。これらの鳥が、我々の現在の焦点である。いろんな方法でやっていけば、野生でヒナを守るだけで十分なのかも知れない。しかし、そうでもないかもしれないので、NEIの人工繁殖群への献身的な世話にありがたく思っている。繁殖によって、アオキコンゴウを育てることを学んだ知識は、野生でも生かせるであろう。

Ménage à trois in captive Fischer's Lovebirds ルリゴシボタンインコの三角関係 Article and photos By WERNER LANTERMANN

LACK (1968)によると90%の鳥全体の種は、一雌一雄である。しかし、現代のDNA技術によって、一雌一雄の種は、他のペアからの交尾を、割合は異なるが、していることを示している。

この発見によって、種は、遺伝的に、または、社会的に、一雌一雄であると区別されるようになった。遺伝子的な一雌一雄は、雌と雄が、実際に、その相手としか交尾をしない。社会的な一雌一雄は、繁殖目的で、雄と雌が関わりを持つことをいう。社会的な一雌一雄は、交尾を実際のペア以外とも行う。我々の鳥小屋でのルリゴシボタンインコ(*Agapornis fischeri*)とキエリボタンインコ(*Agapornis personatus*)の雄達が、一羽の雌と交尾しているのを見た。その時、本当のペアである雄は、巣箱でヒナの世話をしていた。

2003年には、7羽のルリゴシが二つのペアと3羽の個別の雌と一緒にいるのを見た。オスの伴侶を何週間も前に亡くした雌は、巣を作り始め、4つの卵を産んだ。3羽が孵り、この雌だけによって育てられた。これらは、人に飼われている鳥だけに当てはまるものなのだろうか。雄が死ぬ前に、交尾をしたのかもしれない。しかしながら、Lovebirds類の体内にどれだけ精子が保存されるのかはまだ分かっていない。この雌が、交尾を2つのペアの中の一羽の雄とした可能性の方が高そうだ。

どのような状態がこの番(つがい)外の交尾をもたらすのだろうか？

ある研究によると、同じ時期に繁殖をすることの度合いと、ペア以外の個体と交尾をする頻度に関係があることがわかった。同時に繁殖することは、雌がペア以外の繁殖を望むオスを比べやすくする。さらに、オスもこれによって、ペア外の交尾をする機会が増えるという利益を得る。ある研究によると、繁殖している個体の数の密度と、ペア外の交尾の頻度に関係があることがわかった。しかしながら、この理論はあまり支持されていないし、野生でのオウム社会学ではさらに研究が必要だ

メンバーから Member missives (訳なし)

Parrot Behavior and Training DVD オウムの行動とトレーニング DVD

"Parrot Behavior and Training"というDVDが発売されました。シリーズの中の最初のDVDは、バーバラヘインデンリック(Barbara Heidenreich)によって作られています。彼女は"Good Bird!"や"Good Bird Magazine"そして"The Parrot Problem Solver"などの著者でもあります。このDVDは、初心者がオウムの行動の基本トレーニングをするために役立ちます。\$21.50 アメリカドルー配送料込み

オーダーはUSショッピングオンラインで: parrottrustusa.org

問い合わせ先 Glenn Reynolds, World Parrot Trust USA, PO Box 935, Lake Alfred, FL 33850, USA

usa@worldparrottrust.org (WPT ジャパンへお問い合わせくださっても結構です)。

New WPT wombat zipper

新製品が販売されます。UK ポンドで 39.99 ポンドになります。ご希望の方は、WPT ジャパンまで、ご連絡いただくか、オンラインショップでご購入ください。100%コットン。サイズ-S, M, L & XL

‘In my opinion....’: 私の意見では.... ここでは、皆様の意見をご紹介します。

Is captive breeding for the pet trade really 'responsible aviculture'?

ペット貿易のための繁殖は「責任のある鳥飼養」か？

By GINA KORNBLITH, WPT member, The Netherlands WPT メンバー オランダ

WPT は野鳥捕獲による貿易に反対し、それを終わらせるために活動をしている。しかしながら、オウムたちは、いまだに人工繁殖され、それらのほとんどは、ペット貿易のためである。この行いの結果について疑問を投げかけないなら、責任のある鳥飼養というものを促進することはできないと思う。以下に理由をあげた。

1. ペット産業で、オウムは大人気になった。そして、誰でもお金と、飼いたいという衝動さえあれば買える商品になった。この手軽な需要は、“工場生産” (factory production)、いらなくなった鳥の安楽死、そしてパロット レスキュー センターが満杯になる原因になった。市場は、供給過剰であり、値段が下がり、彼らは使い捨ての商品になった。オウムは、「いい商売」であり、一羽一羽のオウムたちは感情のある生き物で、彼らなりのいい一生を終える権利があるという事実を見失っている。

2. 野生で捕まえられたオウムは、古代ギリシャやローマの時代から飼われていた。最近では、より多くの種類が人工飼育の元で繁殖されているが、2, 3の例外を除いて、誰も「家畜化」されたとは言わない。オウムのような鳥は、少なくとも 3500 万年前からいたようだが、彼らは、人に飼われるより、野生で生き残っていくために進化した歴史のほうが無限大に長い。人工飼育された二代目、三代目、そして、それ以後の世代の鳥ですら、飼われるという事に適応していないという点では、まだ「野生」なのである。鳥類福祉連合 the Avian Welfare Coalition (www.avianwelfare.org)に宛てた手紙の中で、獣医のトッド ウォルフ (Todd Wolf) はこう書いている。「これらは野生動物であり、多くが人間に飼われるような環境に適応できない。不適応は、多くの行動上の問題として現れている」。餌の与えられたかごの中では、餌を探しに行く必要もなく、天敵に襲われなくてもいいことをありがたがっているに違いないと思い、我々自身を慰めるが、その鳥がその状況をどのように感じているのかを「彼自身」の見方で我々に示すまでは、我々の気持ちを彼らに当てはめることはできない。多くの飼われているオウムは、することがない暇さのストレスに耐えかね、それらの状態をなんとかしようと、不適応な行動へと走る。したがって、自分で自分の羽をむしるなどの深刻な行動上の問題をよく見かける。オウムたちは野生の中で遭遇するストレスに対応できるように進化したが、飼われた状態のストレスに対応できる能力は持ち合わせていない。鳥は病気や具合の悪いことの兆候を本能から、出来るだけ長く隠すことを知っている。野生ではこれは、天敵から身を守るための適応である。これは、飼われている状況にも当てはまるかもしれないーストレスを感じているように見えない鳥も、実は感じているのかもしれない。

3. イルカ、ゴリラやチンパンジー、そして、カラスとオウム類は、我々が知る限りでは、人間の知能にもっとも近い生き物のグループである。そして、その知能は驚くべき程である。これらの動物グループの中で、オウムだけが人間によって、多く飼われている。その状態は、肉体的、精神的にダメージをもたらすことが多い。

4. 肉体的、精神的に健康的な状態を飼育下で保つため、彼らの知的能力の高さ、そして、彼らの行動的に必要な条件を、野生の鳥として満たすのは、とても難しい。もしそれが、不可能でないならば。最低限として、以下のことを考慮に入れねばならない。

a 精神的な必要性：オウムの知性

b 肉体的な必要性：飛翔、かじること、餌探し、餌の多様性、湿気

c 社会的な必要性：群れ、パートナー

d 医学的な必要性：不適切な繁殖、飼育状況、餌やりからの病気、

e 寿命：大抵、飼い主より長生きする

5. オウムの必要性に無知である、または（その上）、必要性を満たすことができない、満たす意思がないなどが、オウムがよくない状態に置かれている主な理由である。例え、大富豪で、とても慈悲深い飼い主が、安全で、刺激があり、変化に満ちた環境を作ろうとしても、オウムたちの自然の生息地に、なんとか少々近づき始めるだけに過ぎない。その上、どれだけたくさんのお金持ちで、慈悲深い世話好きの飼い主がこの世に、いるのだろうか？

殆どのオウムたちは、不適當な食べ物と、不十分な運動と、仲間との交流が少ししかない、又は、殆どないという状態で、カゴの中に入れられることとなる。簡単に言うと、彼らの生活は簡略化されている。彼らは、そんなことよりもっとたくさんのがことができ、もっとたくさんのことをする権利がある。

6. オウムがどれだけ特別なことが必要であるかを知らずに、オウムを簡単に得ることが出来るため、オウムは、多くの問題を経験することとなる。そして、問題が起こり始めると、レスキューセンターに捨てられるか、飼い主から飼い主へと、時によっては、かなりの回数、たらいまわしにされる。

飼い主にとって困る問題は、オウムたちの鳴き声、家具などを破壊したり、人に対して攻撃的になる行動である。オウム自身の問題は、自分の羽を抜くこと、自分を傷つける自虐行為、病的に繰り返される行為などである。オウムのレスキューセンターは、もう、一杯で、毎日、連れてこられるオウムの受け入れを拒否しなければならない。多くの鳥たちは、精神的にも、肉体的にも、痛ましい状態で連れてこられるため、効果で、長期間に渡る医学的、または、行動学的のケアが、養子に出されるようになる前に必要である。

www.fosterparrots.com).

多くのオウムが衝動買いによって飼われ、買主が「何というものを引き受けてしまったのか」後悔すると、鳥は、捨てられるか、また売りに出されるのである。オウム行動専門家やそのような行動に関する本がよくあるのは、そのような問題がどれだけ多いかということを物語っている。「オウム行動コンサルタント」の中でも、まだ、時代遅れで残酷な方法を使うものがあることは、ひどい無知と、そして、簡単に問題を直してしまいたいという欲求の現れである。このような問題が、度合いこそ違えど、殆どの飼われているオウムたちに存在するという事は、鳥たちが、彼らのいる状態に対応できていない明らかなサインである。

7. 殆どの市場がそうであるように、オウムの販売も利益によって推進されている。「市場調査」が、「抱きしめられるような、人に育てられた赤ちゃんオウム」が好まれるとわかると、そのような鳥の「生産」は増える。しかしながら、研究者達は、このようなヒナこそ、一番深刻な問題になると示している。彼らは、自分たちが何であるのかよくわかっていない。彼らの社会的スキルは乏しく、叫んだり、羽をむしたり、自虐行為に走るのである。(Low, Rosemary. The importance of parent reared parrots. PsittaScene Vol 13 No 1, Feb 2001 12-13.)

さらに、鳥類の獣医ハーコート・ブラウン (Harcourt-Brown) は、ヒナが親鳥と巣にいる間、彼らは、体をびったりと寄せ合っあまりうごかない。ヒナを巣から取り出し、人の手で育てることは、体が動くことを意味し、骨の形成に影響を与える。

8. レスキューセンターで、新しい飼い主を待っているオウムたちがいる限り、オウムを市場に出すためにさらに繁殖するのは不必要である。その市場でさえ、すでに供給過剰なのだから。不適當な飼い主にオウムたちが飼われる数を減らすために、オウムについての教育が必要である。家をなくしたオウムたちに、いい飼い主を見つけてあげるために、養子の可能性を広告する必要がある。人間と動物の接触があるかぎり、人間と動物の関係は変わり続けている。オウムの福祉に関わる者として、我々はオウムとの関係、そして、その関係をどう使っていくのかを、もっと真剣に見つめるべきであると感じる。

繁殖をする者にとって、繁殖は報われるものであろう。しかし、オウムは我々を喜ばせるために存在するのではない。例え、考え方や行動を大きく変えなければならないとしても、オウムの福祉の問題をもっと正直に、そして、オープンに伝える責任は我々にあるのである。多分、一番責任感のある鳥類飼養者は「要らなくなった」オウムの世話をしているリハビリテーションで献身的に働いている人たちであろう。我々はこのような人をもっと支持していくべきである。

著者から一言：このトピックについて、私の考えを変え、そして、明らかにする助けになった WPT オンラインフォーラムの話し合いに参加したメンバーに、お礼を申し上げます。そして、オウムの現在と、未来のために、今、働いている人々に、特別に感謝します。

お悔やみ In memory of Eugene Klindedinst ユージーン クラインディンスト

80歳でなくなった WPT ライフメンバーのユージーン クラインディンスト氏のご逝去にお悔やみを申しあげます。

お悔やみ In memory of Peter Cadbury ピーター カバリー

88歳でなくなった、WPT ライフメンバーのピーター カバリー氏のご逝去にお悔やみを申しあげます。

Birds of a feather マイレッジの寄付

マリエタジョージア Marietta Georgia のケビン ケンダル氏による飛行機のマイレッジの寄付に心からお礼を申しあげます。彼の寄付によって、WPT US スポークスパーソンのジョアナ エクルスは、パラダイス パークにある UK オフィスで一週間過ごすことができました。同じ週にディレクターのジェイミ ジラルディはブリュッセルとロンドンで行われた貿易禁止の会議に出席しました。例え、メールやインスタントメッセージが発達しても、直接会って仕事をする事は不可欠です。

オウム保護は世界全体の問題ですので、多くの言語と貨幣を扱いながら業務を実行しなければなりません。我々は、現在、シタシーン記事のボランティアの翻訳者達が、8つの言語に渡ります。日本語、オランダ語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、そして、スウェーデン語です。

もし、飛行機のマイレッジを寄付していただけるのであれば、カレン、または、ジョアナの以下の連絡先にご連絡ください。日本支部の今西に連絡していただいても結構です。

カレン ウットリー Karen Whitley (イギリス本部) uk@worldparrottrust.org

ジョアナ エクルス Joanna Eckles (US オフィス) joanna@worldparrottrust.org

今西倫子 (日本オフィス) japan@worldparrottrust.org

キャプション

左から David Woolcock (WPT 理事, (PP =パラダイスパーク)PP 館長), Jamie Gilardi (WPT ディレクター), Michelle Cook (WPT インターナショナル 事務), Nick Reynolds (WPT 理事, PP ディレクター), Karen Whitley (WPT インターナショナル 事務), Alison Hales (WPT 理事, PP ディレクター), Joanna Eckles (WPT) and Ray Hales (PP).

Bird clubs of Virginia rally for WPT 米国鳥の会がオウム保護活動を支援

WPT USA 代表 グレン・レイノルズ

(訳: WPT ジャパンボランティア H.T さん)

バージニア鳥の会は非営利連合であり、加盟するバージニアの5つの鳥の会(コモンウェルス鳥類学会、首都圏鳥の会、オウムブリーダー協会、ペニンシュラ飼鳥協会およびサウスウエストバージニア鳥の会)に一貫性と情報伝達手段を提供する統括団体である。会は1985年1月、熱心な鳥愛好家が国家的な連合体を計画するためにバージニア州ハンプトンに集い結成された。会議の結果、設立者 Dick Ivy のアイデアが基本となり、バージニア鳥の会 (BCV) が組織された。5ヵ月後、BCV は第一回会議をバージニア州ハンプトンで開催した。以来 BCV は毎年会議を主催し、60,000 ドル以上を授与して鳥類の調査研究、教育および保護プロジェクトに貢献しこれを促進してきた。さらにアメリカ鳥の会に参加することで、加盟団体および全米の鳥の会に情報伝達の手段を提供している。バージニア鳥の会は、新進の鳥の獣医を目指す学生への奨学金支給からオウムやその他の飼鳥の栄養学および病気防止、絶滅の危機にさらされるまたはその恐れのあるオウム種の保存にいたるまで、多岐にわたる鳥類のための試みのための資金集めの促進剤という役割を果たしている。

バージニア鳥の会は偉大な組織であり、そのすべての功績をここに挙げることは到底できない。BCV について詳しく知りたい方は会のウェブサイト <http://www.birdclubsva.org/index.htm> を参照されたい。バージニア州ウィリアムズバーグでの2006年バージニア鳥の会年次総会において、次のとおりワールドパロットトラストにご寄付をいただいた。

バージニア鳥の会	1,200 ドル	ペニンシュラ飼鳥協会	300 ドル
コモンウェルス鳥類学会	300 ドル	サウスウエストバージニア鳥の会	100 ドル
首都圏鳥の会	300 ドル	トム・マーシャル WPT 終生会員	100 ドル
オウムブリーダー協会	200 ドル		

ワールドパロットトラストはのご厚意と、BCV およびその加盟団体による変わらないご支援に深く感謝いたします。

キャプション - WPT を代表して WPT 会員マーク・サージェントに寄付の小切手を差し出す BCV 事務局調整役ジョン・ロング(写真右)

Psitta News シタニュース

Endangered Salmon-crested Cockatoos released following their confiscation from smuggler

絶滅危惧種オオバタンが、密輸入業者から没収され、放された

By BONNIE ZIMMERMANN, bzimmerbird@gmail.com

2006年3月、3羽のオオバタン(Cacatua moluccensis)が、18ヶ月前に捕獲された。そして、彼らは、セラムの島、マルク諸島、東インドネシアに戻された。これらの鳥は、2004年9月、マヌセラ国立公園のオフィサーが、9

羽のオオバタンと7羽のオウムがスラウエシの密輸入者から没収したものの中の鳥だ。鳥達は、フアウル村の住民から買われた。密輸入業者から没収した鳥を元の場所に戻すのは、病気などの危険性があるため、世界保護ユニオン the World Conservation Union (2002)と、サイテス (CITES) からのサポートを受けた。近所の村のマシウランの村人や現地のいくつかの学校から子供たちが、この初めての、放鳥を見に来た。これは、この島での大きな出来事の一つのようで、鳥たちの元々の住処に、もっと絶滅危惧種が戻されていくことを望む。そこに生息する動物と環境の影響を減らすため、放鳥は CITES と IUCN の規則に従って行われる。放鳥の前に、鳥たちは、マイクロチップのついた足輪を付けられ、尾には消えないインクで短期間のモニターのためマークを付けられる。

Two new species discovered 2種の新種が発見される

Research bolsters case for Philippine conservation フィリピンの保護活動に活気を与える

By GREG BORZO, gborzo@fieldmuseum.org

科学者達は2種の新種を発見した。オウムとねずみで、フィリピンの一つの小さな島にだけ生息する。この島は、カミギン Camiguin は、フィリピンで一番小さな島である。

「少なくとも 54 種の鳥と、24 種の動物がこの島に生息し、これらの何種かは、この島にだけ見られるということを知ることは、保護活動に関して、この島がいかに大切かということがわかる」とローレンス ヘニー Lawrence Heaney は言う。「これらの動物を救うため、彼らの住んでいる、減りつつある森を守らねばならない」

この島全体は、熱帯雨林で覆われていた。しかし、2001 年には、島の 18% だけが森のままで残っている状態になった。その後も、伐採、農耕、そして、人間が住むことが森林を侵食し続けている。実際、島の半分はココナッツのプランテーションで覆われている。

「他の場所には見られない種がいるレベルが非常に高いため、フィリピンは、生物多様性のグローバルセンターと見られ始めている」とハリボンファンデーション陸上エコシステム プロジェクトディレクターであるブラスタバランサ (Director of the Terrestrial Ecosystems Project of the Haribon Foundation) (マニラにあるフィリピンの保護活動 NGO) とフィエルディアナ (Fieldiana) レポートの共著者は言う。

「残念ながら、フィリピンは、世界でも森林破壊で悪名が高い」

科学者達はカミギンの熱帯雨林は世界的な保護活動でとても大切なものと宣言する。この島に残っている森を守るために、国際公園を作る努力は、以下の組織の協力で行われている。フィールド ミュージアム、ハリボンファンデーション、地方自治体、フィリピン環境と自然資源省 (The Field Museum, Haribon Foundation, local government, and Philippine Department of Environment and Natural Resources.)

この森は、絶滅の危機に瀕する野生動物を保護するために必要なのではなく、新たに発見された2種を守るためにも必要である。そして、島に収入をもたらすエコツーリズムや島の周りにあるサンゴの生息のためにも必須である。

新たに発見されたオウムは a Hanging-parrot の一種 (*Loriculus* 属、サトウチョウ)、または Colasisi であり、体の大部分は明るい緑の羽で覆われている。喉と、体に近い足の部分の羽は明るい青で、頭のてっぺんと尻尾は明るい赤—オレンジ色である。雄も雌も同じ羽の色で、これは、このオウムグループでは、珍しいことである。英語の一般的な名前は Camiguin Hanging-parrot で、学名は *Loriculus camiguinensis* と名づけられた。

ねずみのほうは、学名で *Apomys camiguinensis* と名づけられた。このねずみは、大きい耳と大きい目をして、長い尻尾と、赤茶色の毛をして、主に種と昆虫を食べる。地元民は、ねずみについては知らなかったが、オウムについては、ペット貿易で価値があることから以前から知っていたようだ。

Minister defends wind farm veto By Jordan Chong, April 6, 2006 (訳なし)

Bird project set for launch バード プロジェクトの開始 Tuesday, April 18, 2006,

フィジーやその他の太平洋の島々にいる絶滅の危機にさらされた鳥類を救うプロジェクトが始められる。イギリスのバードフェア (Birdfair) からの利益が使われるとバードライフ インターナショナルの太平洋地域 プログラム マネージャー、ドン スチュワート Don Stewart が言った。今年のフェアのテーマは「太平洋のオウムとインコを救おう」であり、200,000 ポンドがプロジェクトのために渡せるはずだ。バードライフ インターナショナルは、世界的に活動する NPO である。www.fjijtimes.com

New website (訳なし)

Texas utility tries to foil Parakeet nests テキサス 電気会社がオキナインコを移動させようとする

By JULIA GLICK

オキナインコが絶えず大きな巣を電柱などに作るため困っていた電気会社は、今までいろいろなことをしてインコを止めようとしてきた。化学薬品の入ったペレットを使ったり、レーザーや偽の天敵も用いた。愛鳥家からの怒りをかいながらも、鳥たちを殺したりもした。しかし、今回、テキサスの電気会社は、少し、違った方法を取ることにした。40フィートの高さのプラットフォームを電柱の側に置き、オキナインコを電柱からこちらのプラットフォームの方へおびき寄せることにした。TXU エレクトリック デリバリー (TXU Electric Delivery) は、他の電気会社もこの方法を使うことを願っているが、今のところ、インコは、自分たちの元々の巣を離れる様子はない。「その辺に木は沢山ある。そして、今はプラットフォームもある。しかし、彼らは電気のスイッチの方がいいらしい」とスポークスウーマンのキャロル ピータースは、40羽ほどのインコがうるさく鳴き、新しい巣の場所を無視する中で、言う。社員は、木の小枝をプラットフォームの上に置くことさえしたが、鳥は、その小枝を、自分たちの古巣に持ち帰るだけである。

「コネチカットでは、1998年以來、12の停電と、4つの火事が、鳥の巣の所為で起きた」と、アル カーボン (Al Carbone)、別の会社 (United Illuminating) の代表は言う。去年、この会社は190羽のオキナインコを捕まえ、安楽死してもらうために、アメリカ農務省に渡した。

オキナインコは、南米からのオウムで、おそらく1960年代に輸送されてくる途中で逃げたのではないかと専門家は考える。多くの州が、オキナインコをエコシステムや、このような人間の経済活動の害になる (an invasive species) と考え、一般の人々が、餌をやったり、世話をしたりすることを禁止している。オキナインコがどうして電柱などが好きなのかは誰も知らない。巣自体は、小さな車の大きさぐらいにまで大きく作られることがあり、大きいものは群れを収容する小部屋に分かれている。

一方で、この鳥の賢さと、鮮やかなトロピカルな色彩を好きな人々を魅了している。ニュージャージーにあるエッジウォーターという所では、バードワッチャー達が、Tシャツ、カレンダー、その他のオウムグッズを売っている。そして、ニューヨークのある男性は、ブルックリンにある営巣場所をツアーグループに案内している。

「彼らは確かに、可愛く、賢く、魅力のある鳥だけど、彼らは大切なサービスを供給する道具に巣を造るから」とピータースは言う。

Associated Press Writer, 4th May 2006

On a lighter note – ちょっと軽めのお話を

Parrot serves time in prison during custody case 保護監督ケースの間、刑務所で過ごしたオウム

By AYINDI O CHASE, 27th April 2006 Buenos Aires, Argentina (AHN) – ブエノスアイレス、アルゼンチン

保護監督ケースが審査されている間、一羽のオウムは5日間、警察の「尋問」のため、刑務所で過ごした。ホルヘ マチャド と R.ベガは近所どうして、この鳥の保護監督の権利をめぐって、争っていた。裁判官は、この問題を解決するために、オウムが飼い主の名前を呼ぶまで、刑務所に行くようにと命じた。5日という長い時間の後、ペポというこの鳥は、マチャドの名前を呼び、そして、マチャドの好きなフットボールチーム、サンロレンソの歌を歌いだした。「ペポは、僕をがっかりさせないって知ってたよ。本当の友達だし、同じフットボールチームを応援しているからね」と、マチャドは言った。 www.allheadlinenews.com

Birthday support by WPT member (訳なし)

(写真) **Parrots in the wild**

Camiguin Hanging Parrot (*Loriculus camiguinensis*) (新たに発見されたサトウチョウの一種)

この鳥は、新たにフィリピンのCamiguin島で発見された。この島は、伐採、農業、住居などによって破壊が続いている。By © Thomas Arndt Courtesy of The Field Museum